



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年9月25日(日)

Vol.336

～FAX通信～ 会頭からのメッセージ終わる御礼

秋元 秀夫

平成14年8月25日号から始まって以来、毎月2回14年2カ月340号を10月25日で終わる事になりました。長い間お付き合いを頂きありがたく心より御礼を申し上げます。

今から14年前の書き出しには「すでに基本計画の理念は決定されており、私はその方針に沿って如何に努力、実行するかであります。理念、方針が如何に素晴らしいものであってもその成否は会員の皆様のご理解、ご協力が得られなければ出来ない事であります。その基礎となるものは人づくりであります。良き友、良き仲間を多く作る事があります。私の後半生の人生を育ててくれた一つに、ロータリークラブがあります。人を育てることは教育ではなく、良き友、良き師を得ることによって自らを育てる事です。ですからロータリーには教育と言う言葉はありません。」と教えられてきました。会議所も全く同じであります。会頭に就任して間もなく前田専務、外山課長から

「FAX通信を使って会頭からのメッセージ情報を会員に送りましょう。私達も協力しますから…」と私の意を介したように後押しをされて始まりました。言うに易しいが実行は難しでありました。先ず時流をしっかりとつかまえて毎朝日経を始め、県紙・地方紙を丹念に目を通しスクラップすると共にノートにメモを取る事から始まり、週・月間紙・日経ビジネス・東洋経済・プレジデント・文春・ニーズウィーク等を購読し、マスコミの時事通信代々支社長、朝日高山修一氏、千葉日報河野良恒氏、新千葉石井氏、かずさ新報石井氏ら毎日居酒屋で過ごす日が多く、キングメーカーと言われた千葉日報土屋秀雄氏には終生可愛がられる幸運がありました。著作者は浜田宏一、丹

羽宇一郎、藤原正彦…高橋洋一、山本幸三、ポールケネディ、ピケティ、ムカヒ、宮本常一等をよく読み、書く事の裏打ちによく読む努力を続けて書庫には文芸タイプで4千冊、文庫本1千冊位メモ帳スクラップ帳はA4・300冊あります。記事はコンピューターの資料を一切使わず、本を主としたのはコンピューターでは答えを即答してくれるが、発想や情緒、感性が無いからでありました。県外の情報は永六輔が師・宮本常一に「人に語り、文を書く時は足で確かめろ！」で教えられた様に私の旅はカーナビを使わない、日程はあるが予約はしない、仲間が多くても自分で運転する。長い旅は9泊10日、7泊、8泊と東京から中国、四国、裏日本、九州1回の行程は3千Kmから4千Km位でした。東北大震災はチャーターして2度現地の最先端まで足を踏み込み大自然の凄さ、到底人力の及ぶところではない事を思い知らされました。反面東北の祭りによってたくましく再起した東北の人々、日本の祭りの素晴らしさ、人心の不思議さにも驚かされました。全国を回遊して知ったことは私達の市は全国で類例の無い恵まれた地域の中にあります。首都圏4千万人、アクアライン、温暖で豊かな海、肥沃な丘陵地帯、湾岸工業地帯であります。私達の市に比べれば全国の地方都市は枯れ野原であります。少子高齢化が心配されておりますが、東欧、北欧の国家は平均500万人位です。千葉県は600万人です。北欧の資源もない荒漠水原の国は世界で最も優れた高福祉社会国家であります。家族が寄り添い助け合って生きる少し貧しかったけれど心豊かな夢と暖かみのある家族社会を取り戻すべき時であります。会議所も同じであります。小さな会員が多い私達の会議所は、小さい者達が力を合わせ、一体となって仲良く助け合い、分かち合って絆を太くして生きることが大切であります。日本が栄えてきたのはこの心が強かったからであります。互いに感謝し合う事を忘れずに、暮らしは楽でないけれど心豊かな繁栄を求めて下さい。終わりにFAX通信発行に協力して下さった前田専務、西田局長、阿曾、羽山、高橋さん、編集校正を担当して下さい下さった中野さんには大変お世話になりました。

皆様長い間ありがとうございました。

平成28年9月25日
会頭 秋元 秀夫